

テーマ 声かけの力

発行日
8月20日
発行者(氏名)

稲田小学校
第3学年児童

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

今年の夏は、**熱中症**に気を付けなければいけないよ。といろいろなところで声をかけられた。声をかけてもらえたから、麦茶をよく飲むようにしたりと自分でも**熱中症**にならないように意識して、お水を付けることができた。声かけには、実は、力がああるのかもしれないと思った。テーマを選んだ。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

①について

岐阜県多治見市では十年間、**熱中症**でなくなった人はいない。気温が三十八度をこえると、防炎無縁から注意をうながす放送を流している。この放送による声かけが、一定の効果^{あげて}を

②について

野球部主将の明るく大きな声が、チームメイトを甲子園に導いた。「親分(主将)の声には不思議な力がある」とチームメイトからは、頼(たの)むを寄せられている。

①②を比べて分かったこと、自分で調べてみたいこと。

使う場面はちがうけれど、声かけをすることで周りの人に大きな声を出せるようになる。声分持つ力の大きさかわかる。自分の身近なところで起きている声かけについて考えてみたいと思った。

III テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

熱中症の注意をうながす放送を聞いた人たちに、まず、お水を付けなければならぬと思わせていることが、効果を上げているのだと思う。野球部の主将の声を聞いた人たちに、「かんばらなればならぬ」と思わせることが、チームを強くさせるのに効果を出していると思う。エロがどれだけ相手の心にとどむのかが大切だ。

ほか一番身近に感じる声かけは、お水だったと思う。大きな声で元気をあしめてあげられると思う。お水は、言葉されると嬉しいから、自分から「お水飲んでね」といったり、言葉も相手からもらえると、逆にありがたそうに言う。お水をしている時でも、コップに大きな声でほめられる。嬉しい。声かけされる場面を思い出しただけでも、嬉しいことがいっぱい出てくる。自分から相手の心に届く親切な声かけをできるようならうと思っ。